

リハビリポケットブック 臨床評価ガイド

Ellen Z. Hillegass 著

清水ミシェル・アイズマン 監訳

＜書評者＞ 伊橋光二（山形県立保健医療大学教授・理学療法学）

本書を手にして、「やっとリハビリテーション医療者向けのポケットガイドが出版されたか」との思いがした。これまで医師や看護師向けのポケット版のマニュアルやガイドブックは数多く出版されており、本学図書館の蔵書検索でも数十編が検索される。一方、リハビリテーション専門職、特に理学療法士や作業療法士向けのポケットガイドはこれまで出版されておらず、本書が初めてと思われる。

理学療法や作業療法を始めとするリハビリテーション医療の対象は大きく拡大しており、さらに高齢患者などでは多くの合併症を有しているケースも多く、リスク管理が非常に重要になってきている。加えて、診療報酬体系の変更などにより、臨床の第一線では非常に忙しい勤務状況になっている。次々と現れるさまざまな疾患の患者を前にするとき、その場でポ

ケットからさっと取り出して種々の情報を確認できるポケットガイドが待ち望まれていたところでの本書の出版は、まさに時宜を得たものということができる。

本書のよさは、まず、なんといってもその絶妙なサイズである。縦 140 mm、横 84 mm、厚さ 10 mm であり、白衣（ケーシ型）のどのポケットにも入るし、ズボンのポケットにも入る。そして邪魔にならない。実際に本書をポケットに入れて種々の運動療法や移乗動作介助を行ってみたが、まったく気にならなかった。

もちろん内容も大変充実している。評価、心肺、筋骨格、神経筋、皮膚、検査、薬剤、参考資料の 8 章構成であり、必要な領域を網羅している。各論部分である心肺、筋骨格、神経筋、皮膚の部では、解剖・生理学的知識、必要な評価、そして基本的な介入方法が簡潔に

示されている。検査の部では生化学検査を始めとする種々の検査の基準値が記載されているだけでなく、異常値の意味と原因、さらにリハビリテーションへの影響も記載されていて大変有用である。薬剤の情報があるのも便利である。そして、多くの図表とカラーイラストや写真が使われており、理解を容易にしている点も特筆すべきであろう。

本書をすでに臨床実習を終了している本学部 4 年のゼミ生に紹介したところ、「臨床実習の前に出版されていたらよかった」との感想であった。もちろん学生だけでなく、新人理学療法士・作業療法士などにもぜひ薦めたい。さらに中堅からベテランまで、常に携帯すれば必ず役に立つ場面があると思われる。リハビリテーション医療専門職に必携の一冊である。

●三五変 頁 280 2009 年
定価 2,940 円
(本体 2,800 円＋税 5%)
[ISBN978-4-260-00765-8]
医学書院 刊